

今週の

倫理

6月のテーマ | 万象肯定

1287号

ことわざに「無くて七癖あつて四十八癖」とあります。辞書によると、「(七、四十八ともに多数の意)多かれ少なかれ、人には癖がある」という意味です。

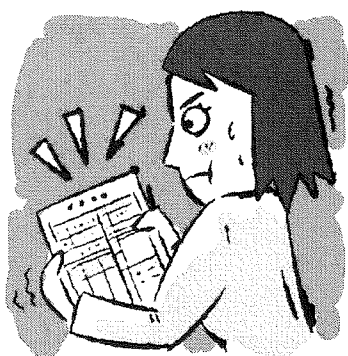
私たちは色々な癖を持っています。動作や表情に表れる癖だけでなく、心の中にもいろいろ癖があります。「癖」という言葉を辞書で調べてみると、「かたよりのある好みや傾向が習慣化したもの」とあります。あまり好ましくない習性をイメージする人が多いのではないのでしょうか。

例えば、心配する癖といった場合は、よくない結果を予想して、憂えたり恐れたりする消極的な心をさします。

しかし、「心配」とは本来、心を配ること、心づかい、配慮という意味で決して悪いことではありません。

倫理研究所専門研究員の高橋徹氏は、人間には三つの汚れがあるといます。一つ目が、身体の表面(外側)の汚れです。二つ目が、よく「老廃物」という言い方をする身体の内側の汚れ。そして三つ目が、最も取りにくい、分らない、気づかない汚れ、つまり心の汚れです。

トイレやキッチンなど、家の掃除を例に考えてみましょう。まず、汚れがどこにあるか、どのくらい汚れているのかを見極めなければなりません。その汚れの存在を認めはじめ、それを取り除くことができます。逆に気づかずいたり、放置したままにすると、臭いを発したり、排水溝を詰まらせたりと様々な問題を起すので、それ



過去を肯定した時、道は開ける

をキレイにしなければなりません。人の心も同じことがいえるのです。

人間の心理として、自分の汚いところは見たくないものです。しかし、自分の中には、そのような嫌なもの、汚れたところがあつて、それに気づかず放置したままにすると、様々な問題を起すことになりま。だから、その原因である「嫌なもの」をはっきりと見て、取り除かなければいけないのです。

その嫌なもの、自分の過去の行ないの繰り返し原因であり、それが癖といえます。まず過去を振り返る必要があります。

人間関係でいうと、苦手な相手に冷たい態度を取ったり、相手を正そうとして責めたり、忙しくてつい相手を邪険にしてしまつたり、思い出したくない過去は人によって色々あるでしょう。そういった過去の出来事を振り返り、その心の状態をしつかりと見つめるのです。心の状態を知り、心の汚れ(癖)を自覚することが、心の汚れを取り除く第一歩となります。

そして「これでよかったんだ」と肯定するので。過去を悔いていても未来は変わりません。過去を肯定した上で、さらに状況を良くするために、今から心と行動を変えていくことが大切です。

そうすることで、心の汚れが取り除かれていき、心がイキイキとして輝きが増していきます。自分のありのままの姿を見つめる努力が自己革新の道となり、自分も相手も幸せになる生き方ができるのです。